

おお、京三中・三五会

さんごかい

三中35回 大島達也

私達約二百名は、一九三九年（昭和十四年）四月に京三十三五回生として入学し、太平洋戦争真っ最中の一九四四年（昭和十九年）三月に卒業した。

一九四五年（昭和二十年）八月の終戦により命をとりとめた私達は、戦後の復興から経済大国と云われる日本を築き上げるため、社会のあらゆる分野で活躍し、その間、「京三中・三五会」の旗印のもとに相集い、励まし合つて来た。その団結力は他に誇れるものと自負している。

現在（平成十六年十月）連絡のとれる会員は百七名で、すでに喜寿を超えた。

● 三五会戦中派の意地を見せ（井津定光）

● 白髪も似合う歳なり三五会（野原敬央）

一九五〇年（昭和二十五年）に第一回の総会を開催。その後一二年ごとに開いていたが、会員が概ね五十五歳定年に達する一九八〇年（昭和五五年）からは毎年開催することとし、とくに約十年前からは必ず何かのイベント（講演、謡曲会、作品展等）と組み

合わせて実施している。出席者数は毎回平均四十名くらいである。

さらに三五会の特色は、一九九一年（平成三年）から「三五会、健康ゴルフ」と名付けて毎月プレー（最近は二組でスコアは公表せず口で勝負）を楽しみ、また、さらに年四回くらいグルメ会を開催、毎回二十名程が集まって、よく食べ、よく飲み、よく語り、明日に向けて充電している。

● あの顔は誰だったのか三五会（藤本泰雄）

● 青春に戻るうれしさ三五会（野原敬央）

● 強情も好々爺もあり三五会（大島達也）

● 趣味もまた玄人裸足の三五会（井津定光）

● 三五会ゴルフ・グルメで古い知らず。（奥てるを）

二十一世紀を迎えた二〇〇一年（平成十三年）に、会員全員の力を結集して作り上げた三五会記念文集「おお三中その名ぞわれらが誇り」は、まさに私達の宝物である。

● 三五会やる気十分世紀越ゆ（萩野一彦）

● 三五会ここまで来ればあと十年（萩野一彦）

● 三五会最後の幕は誰が引く（野原敬央）

● 最終の幕はこの俺引くつもり（野原敬央）

● やがて行く賽の河原で三五会（奥てるを）

最後になったが、創立百年を祝し、京三中・山城高同窓会の皆さんのご多幸を祈念します。